



K.Miura

THE SPORTS NIPPON SHO STAYERS STAKES

第59回 スポーツニッポン賞 ステイヤーズステークス (GII)

1着 2着 3着 4着 5着
本賞 62,000,000円 25,000,000円 16,000,000円 9,300,000円 6,200,000円
付加賞 1,008,000円 288,000円 144,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳55^{kg}、4歳以上57^{kg}、牝馬2^{kg}減、2024.11.30以降GⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2^{kg}増、牝馬限定GⅠ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1^{kg}増、2024.11.29以前のGⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1^{kg}増(ただし2歳時の成績を除く)

2025.12.6 中山 晴・良 芝3600m (国際) (特招)

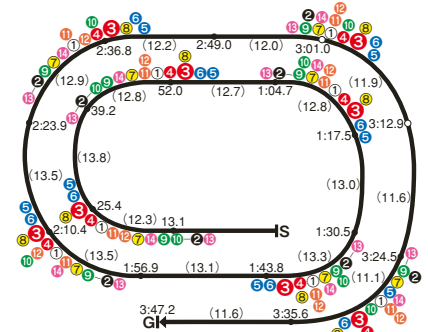
着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	③	ホーエリート	牝	4	55	戸崎圭太	3:47.2	3-4-3-3	34.0	476(-6)	4.4②	田島俊明(美浦)	104
2	④	マイネルカンパーナ	牡	5	57	津村明秀	3/4	5-5-5-3	34.0	414(+2)	11.6⑤	青木孝文(美浦)	107
3	⑦	クロミナス	牝	5	57	ルメール	ハナ	11-11-10-11	33.5	494(±0)	3.5①	尾関知人(美浦)	107
4	⑧	ブレイヴロッカー	騾	5	57	荻野 極	クビ	3-3-3-1	34.2	456(+2)	18.3⑨	本田 優(栗東)	107
5	⑫	ワープスピード	牡	6	57	菅原明良	3/4	5-7-7-6	33.9	504(+6)	18.0⑧	高木 登(美浦)	
6	①	ヴェルテンベルク	牡	5	57	松若風馬	クビ	8-8-7-6	34.0	482(-4)	11.9⑦	宮本 博(栗東)	
7	④	チャックナイト	騾	5	57	佐々木大輔	クビ	9-10-10-9	33.8	500(+18)	7.6④	堀 宣行(美浦)	
8	⑪	ヴェルミセル	牝	5	55	鮫島克駿	ハナ	9-8-7-6	34.1	466(-2)	7.1③	吉村圭司(栗東)	
9	⑨	シルブロン	牡	7	57	T.マーカド	1/2	12-12-12-12	33.7	504(+8)	18.6⑩	稲垣幸雄(美浦)	
10	⑩	メイショウブレゲ	牡	6	57	石橋 脩	2/2	13-13-12-12	34.0	470(±0)	68.0⑫	本田 優(栗東)	
11	⑩	ラスカンプレス	牡	4	57	A.ブーシャン	クビ	5-5-5-5	34.8	494(+6)	11.6⑥	林 徹(美浦)	
12	⑥	ミクソロジー	騾	6	57	石川裕紀人	1	2-2-2-2	35.4	430(-4)	78.1⑬	辻野泰之(栗東)	
13	⑬	ワイズワールド	牝	5	55	菅原隆一	3	14-14-14-14	34.5	428(-2)	342.3⑭	蛸名利弘(美浦)	
14	⑤	ヒュアキアン	牡	4	57	吉田 豊	大差	1-1-1-9	38.0	520(+2)	40.9⑪	竹内正洋(美浦)	

単勝③440円(2^{kg}) 複勝③160円(2^{kg}) ④290円(7^{kg}) ⑦160円(1^{kg}) 枠連③-③2,610円(13^{kg})

馬連③-④2,200円(6^{kg}) ワイド③-④730円(6^{kg}) ③-⑦360円(1^{kg}) ④-⑦980円(11^{kg})

馬単③-④4,150円(12^{kg}) 3連複③-④-⑦3,030円(3^{kg}) 3連単③-④-⑦17,550円(27^{kg})

5重勝②③⑥⑩⑬157,470円(1,893票) 対象競走: 阪神10R/中山10R/中京11R/阪神11R/中山11R



通過タイム: 600m 800m 1000m 上り: 800m 600m
39.2 - 52.0 - 1:04.7 46.2 - 34.3

アラカルト

- ・戸崎圭太騎手はステイヤーズS初勝利。JRA重賞は25年9勝目、通算86勝目
- ・田島俊明調教師はステイヤーズS初勝利。JRA重賞は25年2勝目、通算6勝目
- ・ルーラーシップ産駒はJRA重賞通算39勝目
- ・4歳馬の勝利は20年オセアグレイトに続く通算20回目
- ・牝馬の勝利は86年シーナンレディー以来39年ぶり、通算2回目

ホーエリート *Hobelied*

牝 鹿毛 2021.4.24生

北海道白老町 (南社台コーポレーション) 白老ファーム生産

馬主・吉田晴哉氏 美浦・田島俊明厩舎

馬名意味・賛歌、雅歌(独)。母名より連想

アイリッシュカーリーIRE系 F17-b

ルーラーシップ 鹿毛 2007	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	エアグルーヴ 鹿毛 1993	トニービンIRE ダイナカール
ゴールデンハープ 栗毛 2012	ステイゴールド 黒鹿毛 1994	サンデーサイレンスUSA ゴールデンサッシュ
	ケルティックハープ 栗毛 2004	クロフネUSA
		アイリッシュカーリーIRE

5代までのインブリード：ノーザンテストCAN S4×M5

INTERVIEW

明石圭介 厩舎長
(追分ファームリリーバレー・育成)

高い評価を受けていました

育成時に騎乗していたライダーからは、「距離が延びて持ち味が生きそう」という声が聞かれていました。馬っぷりも良かったうえに、山元トレーニングセンターのスタッフからも、「いつかは重賞を勝てる馬」と言われるほど高い評価を受けていた馬です。今回は一線級の牡馬が相手でしたが、レース前の不安を感じさせないほどの強いレースを見せてくれたと思います。

T.Miki



舞台は中山の内回りコースを2周する芝3600m。1967年の創設以降、「平地最長距離JRA重賞」として親しまれてきたステイヤーズSを制した牝馬はこれまで1頭(86年シーナレディー)しかいなかった。しかし重賞2着3回の実績を持つホーエリート、京都大賞典の3着馬ヴェルミセルと、2頭の牝馬が2、3番人気の支持を集めた2025年は、対抗候補と目されていたホーエリートが牡馬勢を従えて快勝。39年ぶりの勝利を飾った。

先導役を務めたのは、ダート路線から矛先を転じてきた芝初参戦のビュアキアン。ゆったりとした流れでレースが進むなか、内枠から好スタートを切ったホーエリートは坂上でブレイヴロツカーを捉え、マイネルカンパナ以下への反撃も抑えて勝利を手にした。

ルーラーシップの産駒で母の父はステイゴールド。春の天皇賞を制したヘデントールと同じ配合で誕生した本馬は3歳時、フラワーCで2着に食い込み、オークス、秋華賞ともに10着へ駒を進めた経歴を持つ。4歳初戦で3勝クラスを卒業した後は、中山牝馬Sがアタマ差の2着、目黒記念はクビ差2着と惜敗を重ねたものの、一方で確かな地力もアピール。3000m級の長丁場に初めて挑んだこの日は血統にも裏打ちされた適性を示し、念願のタイトルをついに掴み取った。

父ルーラーシップ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、香、首20戦8勝(クイーンエリザベスII世C・香^{G1}、アメリカジョッキークラブC^{GII}、日経新春杯^{GII}、金鯱賞^{GII}、鳴尾記念^{GIII}、宝塚記念^{G1}2着、ジャパンC^{G1}3着)、13年から供用〔代表産駒〕ソウルラッシュ(ドバイターフ^{G1}、マイルチャンピオンシップ^{G1})、キセキ(菊花賞^{G1})、ヘデントール(天皇賞(春)^{G1})、メールドグラス(コフィールドC・豪^{G1})、ドルチェモア(朝日杯フューチュリティS^{G1})、マスクトディーヴァ(阪神牝馬S^{GII})、ダンビュライト(京都記念^{GII})、リオンリオン(青葉賞^{GII})、ホーエリート(本馬)、ワンダフルタウン(青葉賞^{GII})、ムイトオブリガード(アルゼンチン共和国杯^{GII})、エヒト(小倉記念^{GIII})、グロンディオーズ(ダイヤモンドS^{GIII})、他に重賞勝ち馬多数

母ゴールデンハープ

北海道白老町 (南社台コーポレーション) 白老ファーム生産 中央20戦2勝
ラストインボーイ(19 牡父ノヴェリストIRE)中央10戦0勝、地方14戦2勝(20 牝父キンシャサノキセキAUS)

ホーエリート 本馬(21 牝父ルーラーシップ)中央15戦3勝(ステイヤーズS^{GII}、迎春S、目黒記念^{GII}2着、中山牝馬S^{GII}2着、フラワーC^{GIII}2着)獲得総賞金149,322,000円

アルファリラエ(23 牝父ダノンスマッシュ)中央1戦0勝 ㊟

(25 牝父リオンディーヌ)

※22(不受胎)、24(流産)

祖母ケルティックハープ

北海道白老町 (南社台コーポレーション) 白老ファーム生産 中央3勝。19年用途変更
アイリッシュハープ(11 牝父スペシャルウィーク)中央1勝、地方1勝
ゴールデンハープ(12 前出)

曾祖母アイリッシュカーリーIRE

中央3勝(有松特別)、96年輸入。13年死亡

ソルジャーズソング(02 牡父サンデーサイレンスUSA)中央4勝(奥多摩S、房総特別、シルクロードS^{GIII}2着、高松宮記念^{G1}3着)

ケルティックハープ(04 前出)

アスドゥクール(05 牝父ジャングルポケット)中央4勝、ソルウェイク(フィリーズレビュー^{GII}、函館スプリントS^{GIII}、キーンランドC^{GII}2着、スプリングターズS^{G1}3着)、ドロウアカード(フラワーC^{GIII}3着)の母

エールブリーズ(10 牡父フジキセキ)中央5勝(奥多摩S2回、六社特別、京王杯スプリングC^{GII}3着、ファルコンS^{GIII}3着)

レース史上2頭目、39年ぶりに牝馬が制す

舞台は中山の内回りコースを2周する芝3600m。1967年の創設以降、「平地最長距離JRA重賞」として親しまれてきたステイヤーズSを制した牝馬はこれまで1頭(86年シーナレディー)しかいなかった。しかし重賞2着3回の実績を持つホーエリート、京都大賞典の3着馬ヴェルミセルと、2頭の牝馬が2、3番人気の支持を集めた2025年は、対抗候補と目されていたホーエリートが牡馬勢を従えて快勝。39年ぶりの勝利を飾った。

先導役を務めたのは、ダート路線から矛先を転じてきた芝初参戦のビュアキアン。ゆったりとした流れでレースが進むなか、内枠から好スタートを切ったホーエリートは坂上でブレイヴロツカーを捉え、マイネルカンパナ以下への反撃も抑えて勝利を手にした。

ルーラーシップの産駒で母の父はステイゴールド。春の天皇賞を制したヘデントールと同じ配合で誕生した本馬は3歳時、フラワーCで2着に食い込み、オークス、秋華賞ともに10着へ駒を進めた経歴を持つ。4歳初戦で3勝クラスを卒業した後は、中山牝馬Sがアタマ差の2着、目黒記念はクビ差2着と惜敗を重ねたものの、一方で確かな地力もアピール。3000m級の長丁場に初めて挑んだこの日は血統にも裏打ちされた適性を示し、念願のタイトルをついに掴み取った。